

第2回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 記録簿		
日 時	平成30年8月31日 13:30-15:30	場 所	糸魚川商工会議所会議室
出席者	<p>委員：白沢賢二委員、齋藤伸一委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、本間寛道委員、木島嵩善委員、小坂功委員、小出薫委員、土田満委員、野村祐太委員、松木美沙子委員、猪又直登委員、小竹貴志委員、竹田しをり委員</p> <p>アドバイザー：伊藤薫氏、江口知章氏、西村浩氏</p> <p>ファシリテーター：吉崎利生氏</p> <p>(欠席) 丸山剛委員、室川亜紀委員、齋藤里沙委員</p>		
(協議内容)			
<p>1. 開会 齊藤復興推進課長により進行 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定刻のため第2回糸魚川市復興まちづくり市民会議を始めさせていただく。本日の次第は、お手元に配布資料に記載させていただいた。 <p>2. 委員長挨拶 (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨日は遅くまで「まち宿シンポジウム」に参加された方もいる中で、連日足元が悪い中で参加いただき感謝申し上げます。 第1回糸魚川市復興まちづくりの市民会議では、本会議の趣旨、取り巻く状況、今後の市民会議の計画などを協議いただいた。 本日は、ファシリテーターである吉崎先生から指導していただき、にぎわいや復興をどのようにとらえるか共通理解を持つ場を用意している。後半はアドバイザーの方から講評をいただく予定としている。時間が許す限りご協力いただきたい。 <p>3. 議事 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の会議の進め方についてご説明する。 市民会議委員による目標設定に関する協議について、概ね2時間程度を予定している。本日は事前に2名の方から欠席の連絡をいただいております、突発的な事情で1名の方が現在参加されていない。欠席となる可能性があるのでご了承ください。 <p>「オリエンテーション」 (ファシリテーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市民会議の目的は「多様な市民や団体の代表が集まり、具体的な「にぎわいのあるまちづくり」を検討し、提案することであり、駅北地域の復興を糸魚川市全体の活性化につなげることを目指す。」としている。 本日は、目標設定の話し合いをしていただく予定としている。その中で、「にぎわい」のような曖昧な言葉について、議論を拡散させながら、たくさんの選択肢を持ちながら、話し合いを進めていきたい。本日の市民会議の目標は、以下の内容を設定した。 			

- 「2026年糸魚川市のあるべき姿、ありたい姿がイメージされている。」
- 「駅北地域を中心とするエリアのにぎわいが定義されている。」
- 「メンバー間で活発に意見が交換され、コミュニケーションが図られることで、市民会議メンバーのチーム形成が育まれる。」
- ・ ぜひ、皆さんの中で多くの話をさせていただきたい。あと5回の話し合いの機会があるので、チームとして進めていただきたい。グランドルールとして、以下の内容を設定させていただいた。また、この後に皆さんの了解のもと、座席の配置を変更させていただきたいと考えている。
 - 「よく聞く、よく話す、よく考える」
 - 「お互いの意見を尊重しよう」
 - 「この時間が有意義なものとなるよう、お互いにサポートしよう」
 - ・ 参加者に求める役割は以下の通りである。
 - 「我々は、共通の目的達成のために集まった、糸魚川を愛する仲間です。」
 - 「市民の代表として復興後の「あるべき姿(客観的な視点)とありたい姿(主観的な視点)」を探求します。」
 - 「この会議の内容を周囲に伝え、たくさんの人たちと意見を交換し、その衆知を集め、この市民会議での検討に活かします。」
 - 「糸魚川市発展の可能性最大化を目指し、闊達に議論し、想像し、提案し、実現に向けて協力します。」
- ・ 大きな検討会議で多く実施される方法としては、提案が出て、その提案について成否を議論して、成否を決めることが多いが、今回は「探求型」である。「どうすればいいのか」、「何をすれば、妙案なのか」について、皆様の英知を集めて、考えていきたい。

「自己紹介」

(ファシリテーター)

委員の皆さまにはお手元に配布した用紙をもとに自己紹介や糸魚川の強みを2分程度で記載いただきたい。用紙の半分には皆さまのこと、残りの半分には糸魚川市のことについて記載いただきたい。

(委員)

糸魚川人はお人よし。

(委員)

大火で死亡ゼロだったので、人情があり、助ける力が強い。

(委員)

海と山の幸があり、自然が多く、どんな季節でもきれいに映る。

(委員)

海山ともに素材の宝庫で、他の地域よりも多く魅力になっている。

(委員)

子育てしやすい。子供も海や山に連れていけるのが魅力と考える。

(委員)

糸魚川は美味しいものが多い。

(委員)

ないものはない、高速のICや新幹線駅、海や山もある。

(委員)

なんでもチャレンジできるところが魅力、チャレンジを応援する雰囲気がある。

(委員)

糸魚川の魅力を1文字でいうと海に代表される青にある。

(委員)

海のおいがする。

(委員)

糸魚川はひとが自慢。団結する友や仲間がいる。

(委員)

県内随一の無形文化財が多いのが財産。

(委員)

海水浴ができるのが良い。

(委員)

糸魚川市の魅力は食(米、海と幸など)。

(アドバイザー)

世界に通用する自然、歴史がある。どのように発信していくか課題となっている。

(アドバイザー)

熱い街(昨日のまち宿シンポジウムでは多数の方が参加して驚いた)。

(アドバイザー)

自然が豊かで、魚がおいしい。食がおいしいのはすごく魅力的である。

「にぎわいのイメージ共有」

(ファシリテーター)

机のレイアウトA~Cグループに配置を移動させていただきたい。

【移動・座席配置変更】

(ファシリテーター)

- ・ 今から委員の皆さまに行っていただくワークは、目標の設定のために、最高の状態を定義していただく。「最高の状態ワークシート」を基に(「受け取りたい未来」として「〇〇が、〇〇な駅北地区/糸魚川」の形で)言葉に表現していただきたい。これから5分間で記載をお願いしたい。

【5分経過】

(ファシリテーター)

グループ内で、個人の意見を発表してもらい、「〇〇が」に着目して整理してもらいたい。

【5分経過】

(ファシリテーター)

グループ内で、他の人の意見との違いと共通点について、検討していただきたい。

【5分経過】

(ファシリテーター)

それでは、各グループに発表していただきたい。

(Aグループ)

- ・ Aグループでは、日常的な話が多く出た。「まちにいる人が〜」、「住んでいる人が〜」など住ん

でいる方の日常(例えば「安らぎがある」、「コーヒーを飲んでいる」など)についての意見が多かった。子供たちに特化した意見もあった。

(B グループ)

- B グループは、市外と市内の目線の意見が出た。市外の目線では、例えば長野の人が水平線を見たいと糸魚川に来るように、全国から人が集まってくるのが良いとの意見が出た。最も住みたいまちになりたいとの意見が出た。市内については子供が憧れるまちやいい仕事と生活があるまち、自分の子供が10年後も暮らしているまちなどの意見があった。

(C グループ)

- C グループは、外の人と中の人の目線で大きく分かれた。外の目線では、新規事業が生まれたり、大学などが研究を行ったりする中で、外部からたくさんの方が訪問するまちやリピートしてもらおうまちであってほしい。中の目線は安心安全なまちや癒しがあるまち、子ども、あるいは、あらゆる世代が自然とまちに足を運んでいるイメージや希望を感じていたり、まちづくりの議論が継続的に活発になっていたりするというイメージが意見として出た。

「(にぎわい) の定義」

(ファシリテーター)

- これまで「受け取りたい未来」を議論していただいたが、より具体化するために、今から「にぎわい」を言葉にしていきたい。いつ、どこで、誰が、どんな風になっているのか、を今から配布する短冊に記載いただきたい。まずは5分間で記入をお願いしたい。

【10分経過】

(ファシリテーター)

- グループ内で共有をしながら整理していただきたい。各意見の主語に着目して、整理していただきたい。

【10分経過】

(ファシリテーター)

- まとめた意見のうち、個別に興味のあるものについて、ご議論いただきたい。

【5分経過】

(ファシリテーター)

- 各委員のテーブルでの議論を頭に残しながら、席替えをお願いしたい。席替えの理由は、各グループ内で意見が完結するのではなく、複数のメンバーの組み合わせで議論することで「にぎわい」について、より深く、広く議論いただきたい。席替え後、席替え前のグループで行った議論について、新しいグループに共有していただきたい。

【10分経過】

(ファシリテーター)

- グループごとに「にぎわい」とはこういうことではないかと、まとめていただきたい。

【30分経過】

(ファシリテーター)

- それぞれのグループで「にぎわい」の定義が出てきたので、発表していただく。

(B グループ)

- B グループは2つ出た。定義の1点目は、「世代を超えた交流が地域を舞台にいくつも行われて

いる様」である。2点目は、「常に人が行き来している商店街、顧客に魅力が感じてもらえる商店街」である。その中で、日本海側と太平洋側の違いをヒントに、具体的な案を検討した。違いとは、海の綺麗さの違い、海の幸の違い、海の景色の違い(夕日)である。これらの違いを活かした具体策として、町全体で釣り客(ビギナー)を受け入れることである。

(C グループ)

- C グループは具体的な定義が出た。「子育て中の世代がランチタイムなどに市内でコーヒーやお菓子を買ってピクニックをしている様子」や「放課後の子どもたちが駅北エリアで遊んだり、勉強したり、お話ししたり、デートしたりしている様子」が「にぎわい」の定義として出た。
- また、最後は新しいことを始めたい人がみーちゃん通りで人が集まる店舗、飲食店をやっているなかで、ワクワクやニヤニヤができる場所のイメージである。なぜ、みーちゃん通りかかというと、他の商店街に比べ、個性が出せると考えた。そして、「にぎわい」自体が当たり前となり「にぎわい」が死語となり、常に人が行き来している状態を目指す。

(A グループ)

- A グループでは、観光客、買い物、日常に関連する意見が多く出た。そこで、「たくさんのひとがまちを楽しみながら買い物をする」という定義に至った。「まちを楽しみながら」というのがポイントである。観光客などファンを増やす仕掛けを行って賑わいをつくる。糸魚川の魅力を高め、外からの魅力を高める。若者がやりたいことをつくることによって、「にぎわい」が当たり前となり、あえて賑わいを意識しなくなる。

「今後の進め方」

(ファシリテーター)

- 資料 No2 にある「2026 最高の状態」を、本日は議論いただいた。次回は、「現状」について、客観的に分析をしていきたい。今日の「2026 最高の状態」と比較して、解決のためにどのようなことをすべきか、取り組みたいことを考えていきたい。それを念頭に置いて、具体策を模索していきたい。

(2) アドバイザーからの講評

(伊藤アドバイザー)

- 参加者の方々は所属されている団体や活動されている代表として来られているので、次の会議までに近くの方々や所属している皆様に話を聞いていただきたい。
- また、住んでいる方々と違う地域の人々や会ったことがない方から意見を聞いて持ち帰って、違う視点を得ることが、重要かと思う。
- 本日にぎわいの定義について作っていただいたので、次回を含め今後の検討にあたっては、当事者意識を持ちご自身で何ができるのか、実現できることかと考えることが必要であり、今後の会議を成功させるカギとなる。

(江口アドバイザー)

- いろんな意見が出たが、一番勉強となったのが、何が必要かと問いかけるとハードの意見が出てくるが、どんな街が必要かと問いかけるとハード面を回答した方は一人もいなかった。今あるものをどう活用するかという視点が議論の中にあって、勉強になった。
- 本日の話を聞くと、理想の糸魚川像として、人が歩いている、人が話している、人が食べている、

このあたりの項目が共通の意見としてあったと感じた。キーワードとしては住民、高齢者、子ども、中高生、家族、観光客、外国人、創業者、ランチ、コーヒー、買い物、夕日、会話、挨拶などが、共通にかぶっていた。

- ・ 事例として、「大地の芸術祭」を紹介する。この事例を見ると 1 か所に集めるのではなく、地域間で人を移動させて、分散させて人々が滞在時間を長くすることが重要である。そうすることで宿泊やランチの需要が生まれる。これらの取組みで、現在の状態になるまでに長年の年月をかけている。
- ・ 次回以降考えるにあたって、駅北エリアの人をどうやって分散移動させていくのか、ということが大切になる。また、糸魚川全体、周辺の自治体や地域と連携して取組みを行うのかという視点も必要と思う。

(西村アドバイザー)

- ・ なんで賑わいの定義を考える必要があるかと考えてみた。人がいて賑わいが生じていれば、このような検討の必要はなかった。今後のにぎわいが出た際には過去の賑わいとは異なるのではないかと思われる。その一因は幸せをつくる順番が変わったからと思われる。昔は、何をしてもうまくいったが、量を求める施策は、人口が減少している中では難しい。
- ・ そのような中で質的なものを目的として持つことが重要である。質的な目標を達成していく中で、量的なアウトプットは自然に伴う。そういった中で、釣り客の受け入れやピクニックは、良いと思う。
- ・ ピクニックや漁師などの具体的な計画を進めると具体的な層がイメージできてくる。どういう方法で実現できるかが重要である。話し続ける未来を持つことが重要である。先のことはわからないので柔軟に修正するコミュニティは必要である。また、コミュニケーションが必要である。

(3) 質疑

(委員)

- ・ 私たちは、最終的なアウトプットを目指していけばよいのか。次回の議論では過去に糸魚川市として取り組まれたことを次回会議に織り込んでいただきたい。
- ・ 定義からプランを生み出したほうが良いのか、プランから定義を検討したほうが良いのか。最終的なゴールが定義をもっていくのかプランをもっていくのか、最終のゴールについて次回までに検討いただきたい。

→ (事務局)

- ・ 定義を実現していくために、どんなことをしていけばよいのか、何ができるのか実現していく取組みを提案していくことが大きな目標である。次回以降のプログラムについてはアドバイザーの皆様などと検討して進めていきたい。

→ (ファシリテーター)

- ・ 次回は皆さんと定量的な部分と定性的な部分の評価を行うことを考えている。実際、質的な部分についてどうなのか、まちの機能を考えていきたい。市民感覚の忌憚ないご意見をいただきたい。

→ (西村アドバイザー)

- ・ 最終的なプランを考えるなかで、途中で定義を変更するなどのサイクルとなるので、場合により最終回には定義を変えることがあり得る。

(委員)

- ・ 現状の評価については、写真などをもって、共有して、議論したいと考えるが、可能か。

→ (伊藤アドバイザー)

- ・ 定量データは行政が持っているが、定性データは、私たちがどう感じているか、周囲の人間がどう感じているかになるので、意見を聞くのと写真を 2, 3 枚あることで、議論が深くなると考える。

→ (事務局)

- ・ 定性的な部分については事務局で整理して委員の方々にもってきていただきたい。

(4) その他

(事務局)

- ・ 次回(第3回)は10月4日(木)13:30からを予定している。場所は、糸魚川商工会議所2階会議室で開催する。
- ・ 質疑で提案があった写真について、写真を撮って、関連する人物にインタビューしていただくにあたって、別途、次回開催案内と一緒に事務局の方からお願いさせていただく。

(5) 閉会

(事務局)

- ・ これにて、第2回糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議を終了させていただく。

以上